



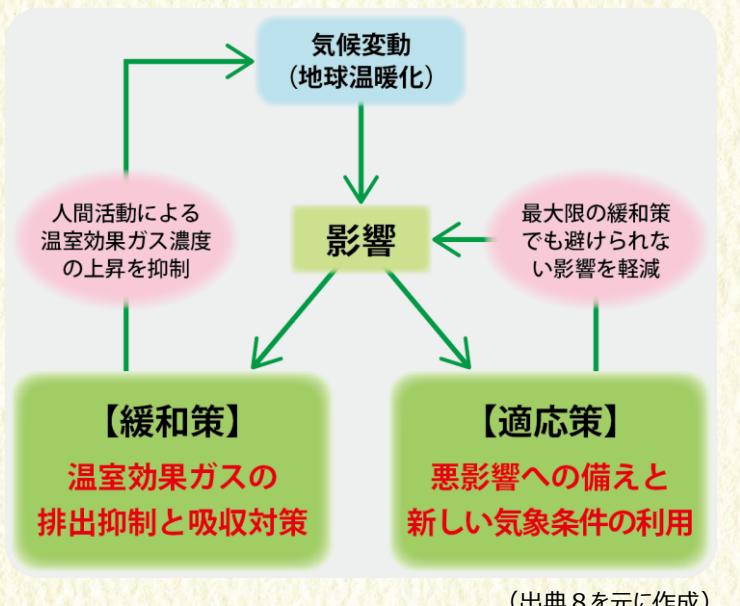
# 気候変動の影響による被害を最小化あるいは回避 節電や省エネなど「緩和」の取組に「+適応」

現在、世界の国々は協力しあい、温室効果ガス排出削減の取組である「緩和」を行っています。

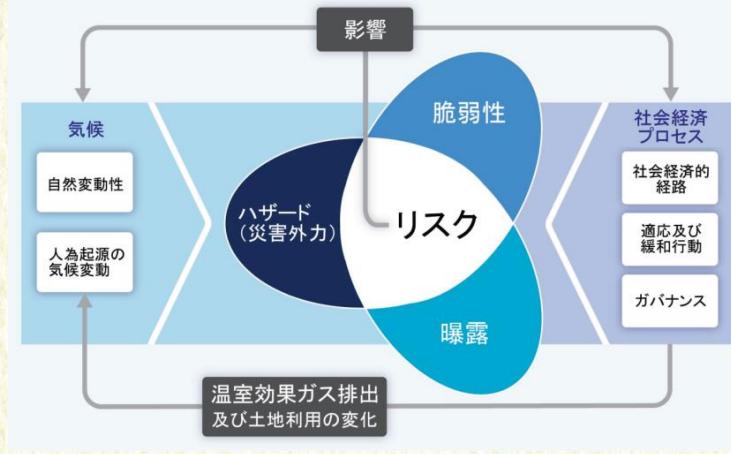
しかし、既に気候変動の影響は発生しており、最善の緩和の努力を行ったとしても、世界の温室効果ガスの濃度が下がるには時間がかかります。

今後数十年間は、ある程度の温暖化の影響は避けることができないといわれています。

そのために「緩和」と同時に差し迫った影響への対処として「適応」の取組も必要なのです。（出典2及び出典7を基に改編）

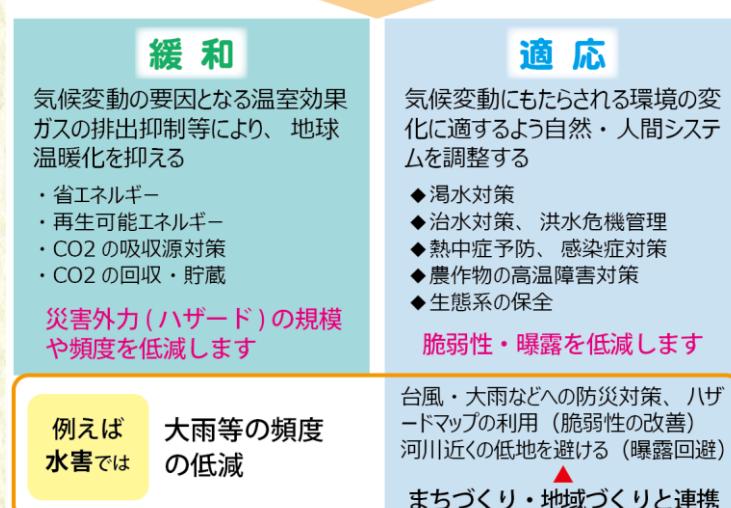


## 気候変動のリスクマネジメント



温室効果ガスの排出を抑制する「緩和」を実施しても温暖化の影響が避けられない場合、その影響に対して自然や人間社会のあり方を調整していくのが「適応」です。気候に関連した影響のリスクは、人間、社会及び自然システムの脆弱性（影響の受けやすさ）、曝露（リスクにさらされること）、ハザード（災害、危険な事象など）の3つが相互に作用しあうことでもたらされます。

そしてこれらには、気候システムや、緩和や適応を含む人間の活動（社会経済プロセス）の変化が大きくかかわっています。温暖化のリスクはさまざまであり、その地域に適した適応策を講じていく必要があります。また、温暖化のリスクというマイナス面ばかりを見るのではなく、プラスの面を積極的に生かすという考え方必要です。（出典1及び出典2を基に改編）



## 始まっています地域の「+適応」

「+適応」は今から始めて遅すぎるということはありません。既に地域で「+適応」の取組を始めているところがあります。先進地域の取組をご紹介します。

**兵庫県** 兵庫県では、各地域の特性を踏まえた適応策を進めるため、「温暖化からひょうごを守る適応策基本方針」を平成29年3月に策定しました。この方針が示す3つの基本的方向性「知る」「伝える」「対処する」に基づき、5つの影響分野「農業、森林・林業、水産業」「水環境・水資源、自然生態系」「自然災害・沿岸域」「健康」「産業・経済活動、都市生活等」に対して取組を進めています。

**滋賀県** 滋賀県では、「滋賀県低炭素社会づくり推進計画」に新たに「適応策の取組」を位置づけ、夏の暑さに強いお米「みずかがみ」の作付拡大や洪水から県民の命と生活を守る「しがの流域治水」の対策を進めています。また、県民等に広く「適応」について理解を促すため、適応策のパンフレットおよび、パネル、チラシ、クリアファイルなどの啓発ツールを作成し、普及啓発を進めています。

## 地域で始めよう！「+適応」

地球温暖化の影響は、地域でも身近な問題として発生しています。

以前と比べて、皆さんの周りではどんな変化がありますか？

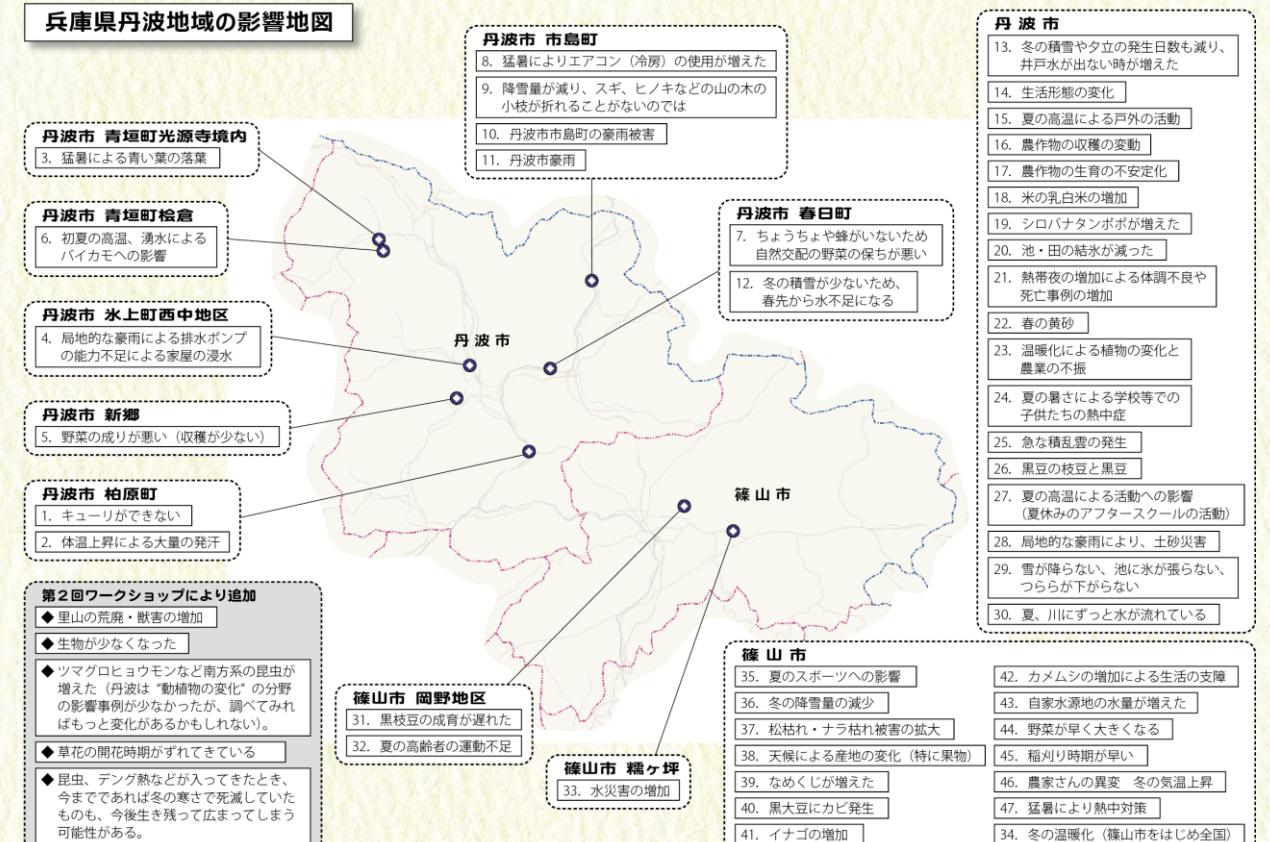
変化を見つけて自分たちが地域の課題と認識して取り組むことが、安全で安心な生活や地域づくりにもつながります。



## 丹波地域でも「+適応」

皆さんお住まいの丹波地域でも「+適応」の取組が始まっています。

地域における適応策の検討を、行政と住民が主体的に取り組むことを目的に、住民の主体性醸成のためのワークショップを実施しました※。  
下図：ワークショップ参加者から出された影響事例が発生したもしくは感じた場所を地図に落とし込んだマップ（丹波地域の例）



※法政大学地域研究センター「気候変動適応のガイドライン～地方自治体における適応の方針作成と推進のために」（出典11）  
(http://www.adapt-forum.jp/tool/index.html) を参考にしてワークショップを実施